

幼児の好きな歌



清水美代子

『動機』学校の音楽教育が歌唱中心であった時代からハーモニカ、オルガン、シロホン、笛などのメロデー楽器が取り入れられ、レコード鑑賞も指導されて広い分野にわたって行なわれるようになって子どもたちは本当に楽しい音楽の勉強ができるようになった。しかし幼稚園ではまだまだ歌唱中心の場が持たれることが多い。それ故どんな歌を喜んで歌うかということは指導の場では大切なことなのである。

指導者は個々の場でそれを受け止めてはいるがどんな要素がその原因になっているかたしかめることもなく過ごす場合が多い。しかも望ましい状態で歌っている子どもは余り多くはない。そんなことで歌唱の実態を調べてみようと思いついて、第一に声域を調べることに取りかかった。

それは幼児期の子どもたちがA音(ラ)までは一応声域であるとは知らされていたのに個々の子どもの中には相当数すでにF音(ファ)からG音(ソ)に移る時もう困難で一オクターブ下げたり、適当な声で歌詞のリズム唱をしている状態があることと、年長組位になるとだんだん不正確な歌唱に気づきその歌う力の中でぼつぼつ歌うことが嫌になり、そこから音楽に対する好き嫌いが育ちだすように思えたからであった。

三十六年八月の休暇を利用して学生に手伝ってもらって調べ始めた。そしてそれを調べるためにも、一方子どもがどんな歌を好んでいるか調べることも手がかりの一つになるように思えたのである。

歌唱の場では優性なものには大変容易に楽しく行なえることが、劣性なものにはなかなか困難なことであることも解った。歌えないものがそこから嫌いと思う、思いの芽ばえを持つ事実の多いのもっともに思えた。しかし音楽は歌えなくてもいろいろな型で音感も育ち、音楽的ないろいろの要素は育つのであるのに、この年代の子どもがそれを原因に『嫌い』というスタートにすることが残念なことなのである。子どもたちはやっぱり美しく正しく歌いたいので

れから得る楽しさは彼らを充分満足させるのである。つまり

1 正しいリズムで歌う。

2 正しい節で歌う。

3 美しい声で歌う。

4 歌うことを楽しむ。

という歌唱に大切なこれらのことは我々の心よい生理と合わせて行なわれるのでなからうか。だから子どもらが好きだと思ふ歌の中から正しく歌う技術も育つかも知れない。声域を調べることに一緒に調べて見ようと思つた原因はこれだった。しかしこれは声域を調べることよりもつと自信のない状態で芽ばえていた。子どもは歌うこと自体が好きで歌ではないのだという氣もした。歌の嫌いな子どもがあるものか、歌えなくなつてその中に浸っているだけで子どもは楽しんでゐるのだという氣もした。

思い切つて昭和三十六年度名古屋短期大学の学生の卒論研究の課題として現職の先生からその手がかりになる材料を頂いて同年六月から十月の教材から十曲を選んで指示した条件のもとに検討してもらつた。

そしてその集計曲二九四曲中上位十曲を取つてデータをとまとめた。第七の水遊びと第十の水鉄砲が同一の曲であつたりして問題はあつたが数的の処理の上でそのままに扱つた。そして一方では子どもたちが選ぶ曲を調べてみた。これは入園前テストをする時『好きな歌』という言葉を与えて歌わせて、更に卒園の時同じように一人ひとりに歌つてもらつた。そしてそれをまとめたのが調査の(一)と調査の(二)である。

調査 I 上位 10 曲 (リズム型及びメロデー調査)

(1) まつぼっくり

作詞・広田 孝雄

作曲・小林つやえ

リズム型 A $\frac{2}{4}$

B

メロデー (主として音程)

最低 最高 3回 3回 5回 3回 1回 1回

16小節

1回 1回 2回 3回

(2) どんぐり

作詞・青木 存義

作曲・梁田 貞

リズム型 A $\frac{2}{4}$

B

メロデー (主として音程)

最低 最高 1回 2回 1回 1回 1回 1回

8小節

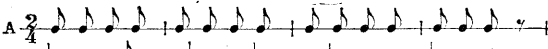

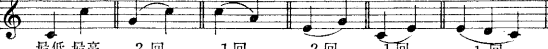
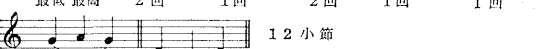
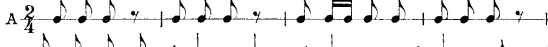

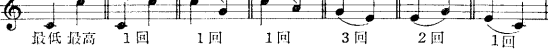



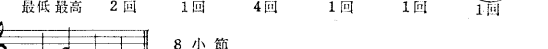
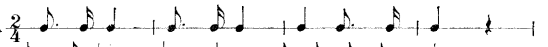


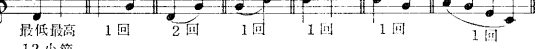
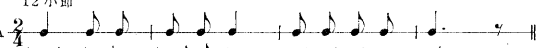
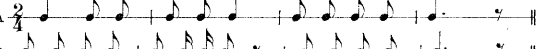
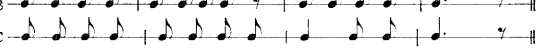





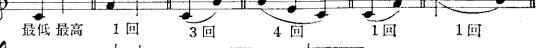
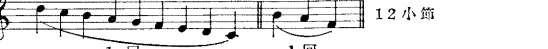
2回 1回 2回 5回 2回

(3) おまつり

作詞・戸倉 ハル

作曲・小林つやえ

何年度に発表されたものかはっきりしないので
リズム型及び音程は省く。

- (4) とんぼのめがね リズム型 A $\frac{2}{4}$  B 
 作詞・額賀 誠志
 作曲・平井康三郎 メロデー (主として音程) 
 最低 最高 2回 1回 2回 1回 1回
 12小節
 3回 1回
- (5) 菊の花 リズム型 A $\frac{2}{4}$  B 
 作詞・立野 勇
 作曲・本多 鉄磨 メロデー (主として音程) 
 最低 最高 1回 1回 1回 3回 2回 1回
 14小節
 1回 1回 1回
- (6) 運動会 リズム型 $\frac{4}{4}$ 
 作詞・三越三千夫 メロデー (主として音程) 
 最低 最高 2回 1回 4回 1回 1回 1回
 8小節
 1回
- (7) 水遊び リズム型 A $\frac{2}{4}$  B  C 
 作詞・東 クメ
 作曲・滝 廉太郎 メロデー (主として音程) 
 最低 最高 1回 2回 1回 1回 1回 1回
 12小節
 1回
- (8) 秋 リズム型 A $\frac{2}{4}$  B  C 
 作詞・則武 昭彦
 作曲・ 同 メロデー (主として音程) 
 最低 最高 1回 1回 1回 2回 3回
 12小節
 1回 1回 1回 1回 1回
- (9) どんぐり リズム型 A $\frac{2}{4}$  B 
 作詞・戸倉 ハル
 作曲・小林つやえ メロデー (主として音程) 
 最低 最高 1回 3回 4回 1回 1回
 12小節
 1回 1回
- (10) 水鉄砲 水遊び(7)と同じ。

(日本音楽著作権協会承認第400917号)

曲の傾向に対する見解の分析

〔Ⅰ〕歌 詞

- (A) くりかえしがある。 (B) 内容がおもしろい。 (C) やさしいからよくわかる。
 (D) 擬音やかけ声がおもしろい。 (E) 子どもの好きなものがでてくる。 (F) 子どもの夢にあってる。 (G) 子どもの生活に結びついている。

曲番	I		数字 %		II		III		曲番	I		数字 %		II		III	
1	B	38	C	18	E	16	6	G	30	D	28	E・F	20				
2	B	29	E	23	C	15	7	D	30	F	28	C	21				
3	D	48	G	32	B	12	8	G	53	E	13	A	8				
4	B	22	E	20	C・F	20	9	A	50	B	18	C	15				
5	C	50	A	13	F	13	10	G	30	D	20	B・F	20				

〔Ⅱ〕リ ズ ム

- (A) 歯切れがよい。 (B) 弾むような感じがする。 (C) 落ち着いた感じがする。
 (D) 流れるような感じがする。

曲番	I 数字 %		II		III		曲番	I 数字 %		II		III	
1	A	52	B	35	／	／	6	B	52	A	43	／	／
2	B	45	A	32	D	20	7	A	51	B	48	／	／
3	A	52	B	45	／	／	8	C	40	A	25	D	23
4	B	45	D	40	／	／	9	B	66	A	29	／	／
5	B	35	D	18	C	15	10	A	52	B	35	／	／

〔Ⅲ〕メ ロ デ ー

- (A) きれいな節である。 (B) 元気な感じがする。 (C) 明るいきいきした感じがする。
 (D) 静かな気分がでている。 (E) 歌詞のアクセントとあっている。

曲番	I 数字 %		II		III		曲番	I 数字 %		II		III	
1	C	30	B	28	E	28	6	B	88	C	8	／	／
2	C	45	E	28	B	20	7	B	81	C	10	／	／
3	B	76	E	18	／	／	8	A	38	C	25	D	20
4	C	40	E	35	A	15	9	C	42	B	23	E	18
5	B	48	C	16	D・E	16	10	B	78	C	12	／	／

〔Ⅳ〕そ の 他

- (A) よく知っている。 (B) 身体の動きが誘いだしやすい。 (C) 遊びに発展しやすい。

曲番	I 数字 %		II		III		曲番	I 数字 %		II		III	
1	A	50	B	30	C	15	6	B	48	C	40	A	12
2	A	51	B	30	C	18	7	B	43	C	40	A	13
3	B	50	C	35	A	15	8	B	23	A	13	C	13
4	C	35	A	32	B	15	9	B	42	C	22	A	19
5	B	45	C	20	A	15	10	B	42	C	32	A	25

〔V〕 導入の仕方

(A) お話から (B) 選びを通して (C) 範唱によって

曲番	I	数字 %	II	III	曲番	I	数字 %	II	III
1	A	54	B 28	C 18	6	C	41	A 31	B 25
2	C	42	A 28	B 18	7	E	61	A 25	C 10
3	B	41	A 38	C 12	8	A	74	C 25	/ /
4	B	38	A 31	C 22	9	B	40	A 28	C 28
5	A	52	C 22	B 12	10	B	63	A 22	C 22

調査Ⅱ 堀田若草幼稚園児の37年度入園児と38年度入園児を調査したものである。1人ずつ入室させて行なった。

37 年 入 園 前 (46人)				39 年 卒 園 前 (53名)			
曲	名	人数	%	曲	名	人数	%
ど	ん	ぐ	り	鉄	人 28 号	15	29
ひ	な	ま	つ	卒園の歌	ちゅうりっぷ	5	10
夕	や	り	け	アトム			
春よこい 靴がなる はとぼっぼ ちようちょ めだかの学校				こいのぼり 春が来た			
				4 8			
春が来た 赤とんぼ あっ ちの水 あひるのスリッパ 赤い鳥小鳥 かわいい魚屋 さん しよじょ寺の狸はや し 先生おはよう すーだ ら節 すずめ とぅりゃんせ 特急こだま どんぐりころころ 七つの 子 ばいさっさ				赤青黄色 エートマン 月光仮面			
				2 4			
				雨 おかあさん たまごが七つ 春よこい			
				みかんの花咲く丘			
				1 2			

38 年 入 園 前 (25人)				40 年 卒 園 前 (57人)			
曲	名	人数	%	曲	名	人数	%
ど	ん	ぐ	り	ち	ゅう	り	っ
				ぶ			
				19 35			
ちゅうりっぷ お正月				蝶			
可愛いベビー 七つの				々			
子 靴がなる				10 18			
				ど			
あの道この道 お馬の親				ん			
子 上を向いて歩こう ジ				ぐ			
ンジロゲ しゃぼん玉 春				り			
が来た 結んで開いて ゆき				5 9			
				卒園の歌 学校へ行く道			
				4 7			
備 テープ使用まちがいの				鉄人28号 春が来た			
考 ため半分音です。				2 3			
				赤い靴 赤青黄色 雨			
				うぐいす 園歌 君が代			
				汽車 こいのぼり まつ			
				ぼっくり 結んで開いて			
				山羊さん郵便			
				1 2			

限られた範囲ではあるがこうして調査してみると調査(I)の中では、二拍子で

は、二拍子でとかとかなどの単純なリズム型のもので、音程もIの和音の三度の現われが大変多く、子どもたちもそれを喜び、指導者も指導の中でそれを感じてそんな歌を多く使っているわけである。いいものの残る足跡を見るとしみじみと歴史の必要性を感じる。幼児の歌は毎年数多くの作詞作曲がされる。そしてそれは今後も続くことである。その中から幼児にふさわしい教材を見つけて残して行くことは保育者の一つの仕事であると思われる。残って行くのはそのものの持つ価値であるが先ず教材として取り上げて行くのは現場のものの力である。保育の場における音楽の役割は保育自体の中にあることが多く、音楽の実際の形とは別に行なわれることもあるが選ばれて行くものの価値と反するものではないはずである。調査(I)の表を見るとこれらの曲は知ってか知らずか随分とその場で研究されていると思われる。

例えば誤って選ばれた水遊び水鉄砲も題を取り違えているながらもいろいろの部分でほとんど共通の見方で、評価されていることである。数字は選んだ人数と直接関係があるが、指導の面までほとんど同じ数であることはこれを物語るものだと思うられる。何年か先に調べる幼児の好きな歌がどんな方向を示すか本当に楽しみである。一つの音楽教材で子どもの音楽性を育てるためには、それが何度も繰り返し使用されることである。そのためには子どもの好きな教材であることが大切な条件で、それを使っていろいろな型で再現される

ことが望ましいと思われる。そんな意味で、広い範囲から教材が選ばれるとよいと思う。またたび子どもたちがどんな歌が好きかということが調べられて、指導者がそれを知ることが意義のあることだと思われる。

調査(II)は少ない人数であるため何年か見つめてきたのである。先ず気づくのは入園前に歌われている歌と卒園前に歌われている歌と余り変らないことである。年間百曲近くの歌が教材として使われているのにこんなに変わらないのはどうしたことだろうと思われるが結局印象に強く残るものが再現するわけで例えば兄弟や親が、かつてよく歌った歌やラジオ、テレビでたびたび聞く歌がそれに当るのだと思われる。だから祖母の頃から伝わる歌もあればこの頃作られた歌もあり、そしてそれらはやっぱり家庭の唄が何となくにじんでいるように思われる。又その歌が余り変らないように子どもたちの歌う能力も余り急な進歩の見られないものだということがこれらの調査で解った。次々いろいろの歌を歌っていると何となく上手になったような気がするが一人ひとり歌わせてみると声域の拡がりも本当にわずかであるし、正確さもこの園での調査では自由選曲の場合では5%位の上昇率を示し、よく歌えるようになったと思われる同一の曲でも15%位の進展を見せた。そして自由選曲の場合は特にその曲の選び方が正確に歌えるかどうかの原因になることで、自分の歌うに適当な歌を選んだ子どもたちはほとんど正確に歌っている。結局自分が正しく歌えるかどうか感じ取る能力自体が子どもの音楽に対

する能力である。前に述べたように個人的な指導を持つと幼児期が音感の育つ一番大切な時期であることが解るが、それはすぐに歌う能力に結びつかないのである。そしてごく少数の子だけは全く簡単にすばらしい音声と歌い方を持っているわけだが数年間調べている間でも一人か二人の少数であった。それに比べて楽器の指導の間でも年少の子とも年長の子とも、時にはもっと大きい子どもたちとも余り変わらない状態の進歩を見せるものであった。唯子どもタイプで興味の度合、落ちついて弾くことができるか否か、大人の練習に対しての助力の仕方などで差がでるが、例えば初め劣性のごとく見えても興味のつながりと練習の回数をうまく配慮するならばむしろ簡単に進歩し、音感も育てることができる。そのため歌唱についての発表よりも先に鍵盤楽器の初歩的扱いということが発表される段階になったわけである。歌唱の方の問題は発声帯という身体内部の営みによって行なわれることだけに、吹いたり押さえたりする楽器と異なつて問題の原因追及がむずかしく、又解決もむずかしいのである。声域を調べている途中で器楽の個人指導を受ける子どもたちが正しく歌えることに気づき昨年三十九年度は年長組全員にオルガン遊びとハーモニカを吹くことを回数はいらないが実施してみた。その結果が卒園前の選曲にも表われたと思われる。

歌唱の育ちは時間のかかるものとすればその間の音楽の育ては何によるかを考えることで、それはその扱いに広さを持つことだと思われる。聞くことは音感を育てる上では大切なことであるが、幼児

の場合には他の営みを伴った方がよりよく聞くように思われる。手足を動かしながら聞いていると意外よく把握しているのもその一例である。リズムの把握は案外できるものである。

むずかしいルールを与えてできないと感じてしまっていることがよくあるので、拍子打ちによる交代や合奏ならば余りむずかしくなく、相当多くの楽器を入れてもできると思われる。これに加えて動作によるリズム遊びもある。これらはよくできるまで根気よく行なわれるならば、一つの音楽を相当何回も扱えるのであるが、折角扱った音楽をうまく教材としての価値ある扱いをしない所に問題があると思われる。リズムを打ったことも動作したことも音楽が背景にあつたらせひそれを一度子どもたちの意識の中にはっきり取り上げてやるとよい。メロデー楽器は自分で聞くことが演奏の土台になることで一層効果があると思われる。それに鍵盤楽器では指の運動を伴うのでたび重なる練習が音感を育てるわけで、私の実験では無器用な男の子では五度の音階でも二十度もの練習を要しその間「ドレミファソ」と歌いながら根気よく練習をしている。そして楽器を離れると歌えない例などもあって音感が歌唱に結びつくことは弾くことよりももっとむずかしいこともあった。

音感が育てばそれを土台にして発声の指導がなされる場合には困難の度合も余程異なってくるわけである。この時代が音感を育てるためには大切な時期であるという根本的な観点のもとに、我々はその方向をみつめて折角時間的にも多くの場を持つ歌唱をより正しく発展させたいものと思うのである。(自由学院短期大学)